

2024 年度日本認知症ケア学会・認知症ケア賞 実践ケア賞

くじら合唱団

【設立年月日】2019 年 6 月

【授賞理由】

本団体は、古民家を利用した通所介護施設として地域に根ざし、参加者の「やってみたい」を引き出す活動を展開しています。個々の興味や能力に合わせたカスタマイズされたプログラムを提供し、とくにミュージックベルでは段階を踏んで練習することで、参加者の自信と能力の向上を促進しています。さらに、地域社会との連携を強化し、介護職員や家族への支援も充実させています。これらの活動は認知症の人の生活の質を向上させるものであり、認知症ケア賞（実践ケア賞）受賞に相応しいといえます。

【団体概要】

長太の寄合所「くじら」は、古民家を活用した地域密着型通所介護です。「心のなかに閉じ込めている『してみたい』という気持ちを引き出し、ともに楽しみ、また社会と繋がりながら形にしていく」を理念に、一人ひとりのしてみたい事を聴き、活動しています。

【事業活動】

1. 懐かしい歌とミュージックベル練習
ピアノとミュージックベルの先生の指導のもと週 2 回、1 回 2 時間の練習
2. 出前公演会（オンライン公演会）
市民会館、認知症ステップアップ講座、遠方のご家族、他の介護施設など
3. ビデオ撮影、DVD の作成と貸し出し
鈴鹿市社会福祉協議会と一緒に、鈴鹿市民へ貸し出しができる DVD を作成

【褒 賞】

第 34 回 三重県作業療法学会 優秀演題賞

【業績等】

長太の寄合所「くじら」の仲間から「だれかの役に立ちたい」「歌が歌いたい」「演奏をしたい」との想いが聴かれたため、くじら合唱団を結成することになりました。目標を決める際、お一人の方から「長太の寄合所『くじら』を卒業し、施設入所した人や同世代の人（高齢者）のため、出前公演できないか」との声が挙がりました。その想いに多くの仲間が賛同し、『歌とミュージックベルの演奏を通して同世代の人（高齢者）を元気にする』ことを目的に、出前公演という目標を掲げ、活動していくこととなりました。

《認知症のある方の可能性：夢や希望は叶えることができる》

ミュージックベルの練習では、①鳴らし方の練習、②歌詞カードの印がついた箇所に合わせて音を鳴らす練習、③曲に合わせてミュージックベル 1 本での練習、④2 本での練習、と段階を踏んで練習を行いました。注意力や短期記憶力低下により数分前の事柄を覚えることが苦手な仲間も、ミュージックベルの鳴らし方を覚え、印のついた箇所に合わせて鳴らし、8 ヶ月後には長太の寄合所「くじら」を卒業された仲間がいるグループホームで、歌を歌いながら 2 本で○と△の印を見分けつつ、演奏することができました。その後、新たな目標として「市民会館での演奏をしてみたい」との思いが生まれたため、練習を継続し、様々な方の協力も得て 2022 年 9 月 22 日に市民会館で演奏を行うことができました。

《仲間と家族の出会い直し》

練習の積み重ねと演奏会での経験により、自信と役割、やりがいを感じ、家族に「今度発表会するのよ」「緊張したけど楽しかった」「まさか市民会館で演奏できるなんて信じられない」など、嬉しそうにお話する姿が見られるようになりました。

《ケアマネジャーと新たな仲間への影響》

ケアマネジャーに、仲間のニーズとくじら合唱団の説明を行いました。はじめは数名の方から「外に出ることによる転倒のリスク」の話が挙がりましたが、転倒防止の工夫をすることで、承諾をいただく形となりました。その後、市民会館で演奏している姿や、目を潤ませる観客から拍手をもらい喜ばれている姿、家族が喜ばれている姿を見て、「大事なことですね」と一緒に喜んで下さるようになりました。また「くじら合唱団に入って演奏したい」との希望が新規の利用者や家族から聴かれるようになり、今では新たな仲間となっています。

現在 2 枚目の DVD 作成に向けて、懐かしい歌の合唱とミュージックベル演奏の練習をしています。レンタルしていただいた方が少しでもほっとできる時間をつくるため、季節感のある歌、楽しい気持ちになる歌、懐かしい気持ちを思い出す歌をみんなで考え選曲しています。また、仲間から「もう一度お客さんの前で演奏会がしたい」「今度は私も出てみたい」とお話をいただいていますので、これからも楽しみながら叶えていきたいと思えます。